

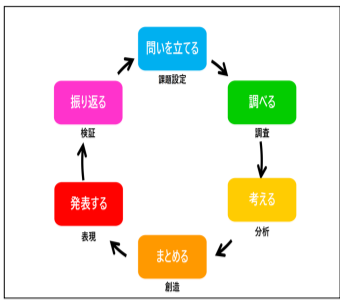
探究新聞

発行者
富士市立高校
デジタル部
富士比奈1654

～疑問が知識の始まり～

皆さんは、探究学習についてどのように感じているだろうか。私たちは、生徒の皆さんや先生方の探究学習に対する考え方を新聞として作成したいと思い、この探究新聞を作成した。そこで、3年間探究学習を行ってきた3年生と卒業生、そして授業内で探究学習を取り入れられている内野先生に取材をしてきた。この探究新聞が、探究について見つめなおすきっかけになっていただければうれしく思う。

みなさんは探究学習について、どれだけのことを理解しているだろうか。実は、本校で行っている探究学習には、主に4つの特徴がある。1つ目は、探究のサイクルが意識されていることだ。問いを立てる→調べる→考える→まとめる→発表する→振り返る→新たな問いを発表する



市役所プランの発表の様子

というサイクルのつとめて、普段の授業は行われている。2つ目は、学習にゴールが設定されているという点だ。生徒が課題を解決したり、達成したりできる取り組みが意識されている。3つ目は、アウトプットの機会が設けられていることだ。それにより、プレゼンテーション力や表現力を養っている。4つ目は、グループ学習や外部との連携を行っていることだ。例えば2年生の市役所プランでは、市役所や地域の方との交流を通して富士市の課題解決に取り組んだ。

ここで、本校で行っている探究学習のメインターンともいえる「探究タイム」の、1学期の活動を少し紹介しよう。1年生は、AIチャレンジを行った。AIチャレンジとは日常生活とAIをつなげて考え、身近な課題を解決していくというものだ。識別系AI、予測系AI、会話系AIの3種類のAIを軸に、問題を解決するためのアイデアを考えた。アイデアの中には朝に起こしてくれるAIや献立を考えてくれるAIなどがあつた。考えるAIがそれぞれの班で異なり、面白いアイデアを出していたのが印象的だった。2年生は、市役所プランを行った。自

分たちで富士市の課題や改善点を見つけ、その問題を解決するためのアイデアを考えた。交流やデジタル、防災などの8つの分野に分かれ、それぞれの視点から富士市の課題を解決しようとした。2年生になり考えるだけではなく、フィールドワークやアンケート、企業との活動を行い、1年生の時より具体性が増した。したがって、自身の成長を感じることのできる活動になったと言えるだろう。

3年生は、これまでの人生を振り返り自分スピーチを行った。そして、自分がどういう人間であるか今一度見直した。探究発表会では、ただ話すだけではなく話し方に抑揚をつけたり、歌いながら登場したりするなどのいろいろな工夫が見られ、1、2年生の探究タイムの授業で学んできたことの集大成となったといえる。

A 探究学習は自分を表現する時間だと思っ
ています。基本的に個人グループでクラス全体という順で探究発表をしていきます。この一連の流れにも意味があつて、この流れでやることでクラスや全体などの大勢の前で発表をする時に自分に自信を持つて発表することができると思っています。

Q2 探究学習はどのような場面で役に立つと思いますか。
A 私は新しいスキルを身に付けることができる授業という印象を持っています。フィールドワークなどで経験を重ねていくことで、新しいことに挑戦する勇気が出ると思っています。その勇気を生かし、新しいことに挑戦することでスキルを身に付けることができると思います。

Q3 探究学習への改善点や理想はありますか。
A 改善点ではありますが、主体的に取り組むことが大切だと思います。探究学習は一生懸命取り組むこともできますが、適当に取り組んだとしても授業は進んでいきます。一生懸命取り組みれば取り組むほど、フィールドワークなど新しいことに挑戦しなければなりません。しかし、主体的に取り組むからこそ、新しい力が付き、自分に自信を持つことができるようになると思います。

1年生への取材
生徒は探究学習をこう思っている！

Q1 探究学習に対してどのような印象を持っていますか。
A 探究学習は自分表現する時間だと思っ
ています。基本的に個人グループでクラス全体という順で探究発表をしていきます。この一連の流れにも意味があつて、この流れでやることでクラスや全体などの大勢の前で発表をする時に自分に自信を持つて発表することができると思っています。

Q2 探究学習はどのような場面で役に立つと思いますか。
A 私は新しいスキルを身に付けることができる授業という印象を持っています。フィールドワークなどで経験を重ねていくことで、新しいことに挑戦する勇気が出ると思っています。その勇気を生かし、新しいことに挑戦することでスキルを身に付けることができると思います。

Q3 探究学習への改善点や理想はありますか。
A 改善点ではありますが、主体的に取り組むことが大切だと思います。探究学習は一生懸命取り組むこともできますが、適当に取り組んだとしても授業は進んでいきます。一生懸命取り組みれば取り組むほど、フィールドワークなど新しいことに挑戦しなければなりません。しかし、主体的に取り組むからこそ、新しい力が付き、自分に自信を持つことができるようになると思います。

Q1 探究学習に対してどのような印象を持っていますか。
A 探究学習は自分表現する時間だと思っ
ています。基本的に個人グループでクラス全体という順で探究発表をしていきます。この一連の流れにも意味があつて、この流れでやることでクラスや全体などの大勢の前で発表をする時に自分に自信を持つて発表することができると思っています。



AIチャレンジの発表の様子



留学生と交流している様子

Q1 探究学習に対してどのような印象を持っていますか。
A 探究学習は自分表現する時間だと思っ
ています。基本的に個人グループでクラス全体という順で探究発表をしていきます。この一連の流れにも意味があつて、この流れでやることでクラスや全体などの大勢の前で発表をする時に自分に自信を持つて発表することができると思っています。

Q2 探究学習はどのような場面で役に立つと思いますか。
A 私は新しいスキルを身に付けることができる授業という印象を持っています。フィールドワークなどで経験を重ねていくことで、新しいことに挑戦する勇気が出ると思っています。その勇気を生かし、新しいことに挑戦することでスキルを身に付けることができると思います。

「先生への取材」 知ってほしい 先生たちの 探究への思い

私たちが次に行ったのは先生への取材だ。授業で探究学習を積極的に取り組んでいる内野先生にご協力いただきその思いを聞いた。

Q1 探究の授業を担当するようになったのはいつからですか。

A 市立に赴任したのは5年前ですが、前の学校でも似たようなことはやっていました。6年近く前です。もつとと言うと、普段の授業の中で問いを深める、考察を深めるという事はしてきたので10年くらいです。

Q2 探究学習を通してどのような生徒になってほしいですか。

A 自分がこうしたいという希望や願望を実現できるような人になってほしいです。それを、少しずつ実現してきたのが歴史だと思えます。その時代に生きていく人が、こうなったらいいと思つて、それを100%じゃないにしても、何とか形にしようとした結果が、その時代の在り方だと思えます。私の場合は、歴史を通してどのように世の中をデザインする力を身に付けるかです。イメージしたことを現実世界に落とし込んで、だだときに、初めて世の中を新しいものが生み出されます。だから、そういったこ

とができるような取り組み、営みを繰り返して、新しい価値を作り出し、世の中にある面白いことや可能性を発信できるようにしたいと思えます。

Q3 探究学習を面白いと思えていない生徒に対してどのようなアプローチをしていますか。

A 面白さというのは強要するものではなく、個人で感じてもらえるものだと思います。面白く感じてもらえる方法としては、2つあります。1つは、「待つ」ことです。私は最近美術に興味を持ってきているのですが、高校の時は一切興味がありませんでした。しかし、最近になって興味を持つようになったのは、教養が豊かになったからだと思います。いろいろな知識や経験が身に付いたことによって、面白さがわかるようになります。

なりました。つまり結局は、その面白さに気づくことのできる知識や経験、感性が身に付いた時に、面白いという感情が生まれるのです。だから、それまで「待つ」ことをしています。もう1つは、そのための知識や経験をたくさん提供して、授業はもちろんですが、集中研修や部活内での出会いや発見を通して、今の自分にはないものをどんどん取り入れ、多くのことを発見してほしいです。私の場合は日本史をはじめとした歴史を深めていく中で、美術が果たしてきた役割の大きさを知ることができました。その結果、美術について調べ、考えるようになり、自分の興味を広げられる人は、誰かに与えられた楽しみを享受するのではなく、自分で楽しむことができるはずです。だから、



熱心に語ってくださる内野先生



授業中の内野先生

Q4 探究の授業のやりがいは何ですか。

A 自分の及ばないような所に生徒が到達した瞬間です。「そんな考えがあるんだ」といったように、自分自身も新しいものに出会った時にはワクワクします。そこから「もっとこうしてみたい」と考えて行動していくのだと思います。例えば「外部の活動に行ってみたらいいかな」と思つたことがきっかけで参加して、自分のキャリア(進路)をこういう風にしたかったら、進路を大学を選び、進路を大学で卒業生もたくさんいます。このように、自分のやりたいことと将来が重なっていったら、それは素敵なことだと思います。そういう人に出会えると、「やっぱりいいな」と、心底思っていますね。

Q5 最後に、生徒の皆さんにメッセージをお願いします。

A 楽しさは与えられるものではなく、作り出すものです。そのようなことができないようになったら、社会は大変なことも多いし、辛いと思うこともゼロではないと思います。それ以上に面白いことがいっぱいあります。それが、今は見えなくなっているだけではないかと思うのです。大変な部分もあると思うけれど、そもそも探究でやっていることは困難を解決する所から始まります。市役所プランやAIチャレンジも「どのようこれに解決していくか。」「どのようしたら、楽しく、面白くできるだろう。」という困りごとからスタートします。自分の持つどんな希望を変えて

いくことができるようになるれば、自分も含めて今まで以上に楽しくなると思えます。

「卒業生への取材」 探究学習は ここで 役に立つ!

実際に卒業後、探究学習はどのような場面や役に立つのだろうか。私たちが最後に卒業生の塚本さんを取材し、卒業後の探究学習について聞いた。

Q1 探究学習でどのようなことを身に付けましたか。

A 私は高校3年間の探究学習で自分の思いや考えを相手に伝える力を身に付けました。それは2つから成り立ちます。1つ目は、話すことです。1年後期のデイベント、2年の市役所プランとテーマ探究、3年の自分スピーチと、それぞれ異なるタイプの話す活動をを通して、よく相手に伝わりやすく話せるように心がけていました。その時の話す対象となる人ごとに、話し方や抑揚を工夫したり、知識を補足したりして、相手の立場に立ってより相手に理解できるような話し方をするようになったと思っています。

Q2 探究学習を経験する前と後が変わったところはありますか。

A 私は小学生の頃から情報をまとめることが好きだったり人前で話したりすることが好きだったため、何か与えられた仕事に対して全部一人で取り組むような人間でした。しかし、探究学習、特に市役所プランでその意識

が大きく変わりました。開く人が多くなるほど、どこかで情報が誤って伝わったり、作業分担やスケジュール調整のよくなることが増えたりすることもありました。しかし、開く人が多くなるほど、人を巻き込む力は増し、何より楽しくなり、より良いものを作ることが目指す過程の部分に、私は高校在学中に心掛けていたのは、ポートフォリオに探究学習を感じたことや考えたこと、得た力など人一倍残しておくことです。大学では、レポートや授業のリアクションペーパー、論述形式の試験など長い文章を書く機会が沢山あります。しかし、高校生返つて言語化する練習をすることが、あまり苦にならず取り組みやすくなります。その上、探究学習の振り返りを残しておくことで、由書や面接の材料になり、受験期に大いに役立つため、学期ごとに振り返りを細かく書いて3年間残しておくことをおすすめします。探究学習は頑張れば頑張るほど自分の力になります。今だけ、ここだけでできる活動は、全力で楽しんでください。



ご協力いただいた塚本さん (10期生)

Q4 卒業後に探究学習が生きたと感じる場面はありますか。

A 大学での学習に生きています。グループワークで話し合いを主導したり、まとめた全体の場で発表したりと、主体的に学ぶことができています。これは全て探究学習で得た力や、何より沢山実践したことからこぼれたため、

が大きく変わりました。開く人が多くなるほど、どこかで情報が誤って伝わったり、作業分担やスケジュール調整のよくなることが増えたりすることもありました。しかし、開く人が多くなるほど、人を巻き込む力は増し、何より楽しくなり、より良いものを作ることが目指す過程の部分に、私は高校在学中に心掛けていたのは、ポートフォリオに探究学習を感じたことや考えたこと、得た力など人一倍残しておくことです。大学では、レポートや授業のリアクションペーパー、論述形式の試験など長い文章を書く機会が沢山あります。しかし、高校生返つて言語化する練習をすることが、あまり苦にならず取り組みやすくなります。その上、探究学習の振り返りを残しておくことで、由書や面接の材料になり、受験期に大いに役立つため、学期ごとに振り返りを細かく書いて3年間残しておくことをおすすめします。探究学習は頑張れば頑張るほど自分の力になります。今だけ、ここだけでできる活動は、全力で楽しんでください。

